

## 函館朝市 地ブリショップ

函館市若松町9番19号 函館朝市えきに市場内



### ●コロナ禍で組合員の閉店が相次ぐ

函館駅二商業協同組合は、終戦後まだ混乱の続く昭和24年3月に設立され、函館を訪れる観光客が年々増加する中、昭和56年に現在の共同店舗「えきに市場」を建設し、平成15年に「元祖いか釣堀」、平成18年に「朝市食堂二番館」を市場内に開設するなど、この間、えきに市場の魅力向上に取り組み、現在では、函館観光の人気スポットとして多くの観光客や市民の皆さんにご利用いただいています。

一方で、函館市や周辺地域の人口減少に伴う売上減少、組合員の高齢化や後継者不在という慢性的な課題を抱える中、令和2年(2020年)からの新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛により、市場を訪れるお客さんが大幅に減少したことで、組合員の閉店が相次ぎ、空き区画が目立つようになりました。

### ●話題づくりで朝市を元気に

函館はイカの街として全国的に有名ですが、年々漁獲量が減少していて、「元祖いか釣堀」でも活イカの確保に苦労するようになりました。

そんな中、以前からブリの消費拡大に取り組んでいた(一社)Blue Commons Japanさんからの提案もあり、近年函館で漁獲量が急増しているブリに関する話題づくりをすることで、えきに市場のみならずコロナ禍で閉塞する函館朝市を元気にしたいと考えるようになりました。

### ●組合が空き区画に店舗を開設

社会経済活動に回復の兆しが見えはじめた令和4年(2022年)、ブリを扱う出店者の誘致に向け、本格的な準備を始めました。

とはいえ、コロナ禍の影響を見通すことができない中で、新規出店者を誘致することは難しいと考え、組合が空き区画に店舗を開設し、運営を(株)ハコダテミライカモンさんにお任せすることにしました。

### ●新しい繋がりが活性化の鍵に

令和4年7月の店舗オープンから、これまで多くのメディアに取り上げていただいたことで、ショップを目当てに函館朝市を訪れる観光客や地元の方を多く見かけるようになりました。

ショップでは、函館ブリ塩ラーメン、函館ブリたれカツバーガー、函館ブリたれカツの店内飲食メニューのほか、ブリ加工品を販売していましたが、今冬、大学生が考案した道南地域の農家とのコラボ新メニュー、函館ベジブリチャウダーも加わりました。

今回のショップの開設を通じて、様々な人が繋がったことで、新しいアイデアや取り組みが生まれていくのを実感しました。

きっかけは何にせよ、このような新しい繋がりが、えきに市場のみならず函館朝市の活性化の鍵になるのではと、今後の拡がりに期待をしています。

